



ポリオ撲滅にむけて

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

前信で、伝え切れなかったことを、申し述べたいと思います。それは、ポリオの件であります。

ロータリーの歴史上、最も画期的な特別プログラムであるポリオ・プラスは、ポリオ撲滅にむけた世界的な協同運動において、ボランティアの最大の担い手として貢献してきております。

国際ロータリーはロータリーの最優先事項として、ポリオ撲滅までは新規の事業を行わず、早期決着（2013年6月まで）を、と全力で取り組んでおります。そして、このような決意のもとに、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの3億5500万米ドルにおよぶ補助金や、Google.orgが運営する非営利財団、グーグル財団より、350万米ドルのチャレンジ補助金を受け取ったのであります。

ここで、ポリオ撲滅運動において忘れてはいけない日本人が2名おります。それは、第2580地区の東京麹町ロータリークラブの会員であった山田ツネ氏（1924-88年）と峰英二氏（1920-89年、医師）であります。このお二人が、ポリオ撲滅の必要性を認識して1978年から独自の運動を始め、1982-83年東京麹町ロータリークラブで南インド・ポリオ免疫プロジェクトを立ち上げ、ワクチン投与活動で大活躍をしました。ワクチン投与活動は、1985年に初めてロータリー財団の特別プログラムに組み込まれましたが、二人はその前から活躍しており、その結果、山田ツネ氏はインドでの風土病が原因で命を落とすことになりました。その後を継いで地区WCS委員長になった峰英二氏もその翌年、同様の運命をたどって他界しました。

1950年から1960年にかけて日本でもポリオが流行しましたが、北海道においても50年ほど前の1957～8年頃から、ポリオの散発流行が赤平や夕張など札幌近郊で始まり、やがて1961年には、北海道を皮切りに全国的な大流行にまで発展してしまいました。日本政府はソ連とアメリカから1300万人分の生ワクチンを超法規的に輸入し、ワクチンの全国一斉投与によって猛威を振るった流行も1961年秋までに劇的に減少して終息しました。

当地区におきましても、上記のポリオ流行に際し、札幌西RCの橋本信夫会員等が札幌医大の研究室においてポリオの検査法を確立し、その後の確定診断や疫学調査に大きな貢献をしました。

そして、さらには、札幌南RCの遠藤正之のバスターガバナーが、仲間の小児科医とともにポリオ撲滅運動を展開されていたことも特筆に値するでしょう。

いずれにしましても、日本や北海道にとって身近な人々が、ロータリーのポリオ撲滅運動以前から活躍していたのはまぎれもない事実であり、そういう意味からも、ロータリアンは物心両面からロータリー財団への積極的な支援と寄付活動に賛同し、参加をして欲しいと思います。

今月はロータリー家族月間です。1995-96年度RI会長、ハーバード・ブラウン氏は、世界平和は地域、家族から始まるとの考えを表明し、11月のRI理事会で2月の第2週を「家族週間」と指定しました。2003-04年度RI会長、ジョナサン・マジアベ氏は、7月のRI理事会において家族の重要性を訴え、2月の「家族週間」にかわり、12月を「家族月間」としました。ロータリー家族とは、ロータリアンの配偶者、物故会員の配偶者、ロータリアンの子供、孫、その他の親戚、ロータリー財団学友、研究グループ交換メンバー、ロータリー青少年交換学生、ローターアクター、インターアクター、RYLA参加者、インナー・ホイールおよびその他の配偶者グループ、世界ネットワーク活動グループなど、ロータリーに関わるすべての人たちを指しております。すなわち、多くの身近な人々と理解を深め、地域を育もうという狙いがあります。

皆さんもロータリーについて、私とともに今一度、原点に戻って考えてみませんか。ロータリーの家族や地域から始まる世界平和について考えてみませんか。